

1. 評価結果概要表

平成19年 11月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2071800144		
法人名	株式会社 ライフケア		
事業所名	グループホームまゆ更科		
所在地	千曲市杭瀬下2丁目85番地 (電話) 026-273-7080		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月8日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】( 19年 10月 17日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤12人	非常勤1人 常勤換算12.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,950 円	その他の経費(月額)	525円/(1日)
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 200000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,400 円

(4) 利用者の概要 ( 10月 17日 現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	11名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 82.2 歳	最低 69 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲荷山医療福祉センター
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りは、体育施設、イベントホール、公園などが点在している。ごく普通の風景に囲まれ、四季を目と体で感じている。職員は、若い職員と経験豊富な職員で構成されており、若いから読み取れる所と経験があるから出来る所、お互いの長所をうまく協働し利用者として接している。利用者にとっては、娘と、孫達に囲まれているような毎日と思われる。若い孫のような職員「やってくれる?」娘のような職員に「今日は、これやるのでお手伝いお願いできますか?」なんて言葉が行き交っていると普通の家庭にきた錯覚を感じる。寒くなると、リビングの一角にお炬燵が作られ、寝室がそこに移ってきても居るような自然体のホームです。若い職員の気負うこと無い対応に力強さを感じます。見慣れた風景の中で利用者も職員も何でも言い合える関係でこれからも、この生活を続けていただきたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホーム便りが年4回、目標に、発行されている。運営推進会議の発足により自治会との関わりも出来ている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が毎日の生活の中、空いた時間に、話し合いを行い自己評価した。多くの職員が初めての体験であり、気付きの場を与えられたという。昨年の外部評価で指摘された事も、受け止め、直すべきところは直し生活に活かしている。運営推進会議にも報告している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 多方面からの委員参加がされている。地域住民の方の参加もあり、有意義な話し合いがされている。会議の方法も利用者がくつろいでいるリビングで行われている。会議中に利用者との会話もする様な事もあり、自然体で認知症の方々の理解を少しずつされている。委員の方々からも行事など、前向きな意見が出され、施設運営に活かされている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会も設置されている。職員は、ホーム全員の利用者と接しているのどの家族からの質問などにも応じる体制作りがされて居る。「ひやりハット」を感じることを重要と考え、毎日の些細な事柄も見逃さずに書き留めて、全職員に連絡している。このような対策を講じていることから、事故を防いでいる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームと地域の関係作りは、大事に考えている。毎日の散歩の時、地元の方への挨拶の徹底をしている。散歩のとき公園で出会った幼稚園児との交流が続いている。定期的にホームへ園児が訪問してくれてゲームなど楽しんでいる。地元の方々のボランティアもホームに来ていただいている。職員と、ボランティアで利用者の要望に答えるための検討もされている。近所の方が差し入れをしてくれたり、お茶を飲みに寄ったりと地域の中に根付いてきている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時よりの、ホームの理念は変わらないが昨年の外部評価時に、「簡潔ですぐ分かるような表現をしたらどうか」の提案に基づき「その人らしく、安心と安定・安らぎ、地域とのふれあい」として、玄関にも掲示して、地域にも発信している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会はもとより、日々の生活の中で管理者は、職員に話している。理念とは別にお年寄りとの接し方も話している。リビングにも張り紙をして職員の意識向上を高めている。職員は、縁があり一緒に生活することになり、利用者の方に「良かった」と感じていただける毎日になるようお手伝いをしたいと語っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費の支払い、回覧板も回ってきている。地区での行事が分かる。毎日の散歩の時に出逢った方々へ挨拶を必ずすることの義務付けをしている。保育園の運動会への招待があったり、幼稚園の園児との定期的な交流がされている。年に2回から3回位ホームに園児が訪問してくれて、利用者と一緒に折り紙などをしてすごしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価は、管理者が一人で作成したが（管理者は18年4月に配置された）本年度は、職員と共に、仕事の合間に、数回に分けて読み合わせをしながら、自己評価をした。職員自身が気づけなかったことが見えてきたり、気づきのきっかけとなった。ボランティアの交流内容の提案事項などに役立っている。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長はじめ近隣住民・地元消防団・利用者家族で構成されている。利用者にとって、身近な方々がメンバーであることは、多くの面で心強く感じられる。推進会議で、消防の件・行事の件など委員よりの提案事項もある。会議は、利用者が居るリビングで行われ、利用者との交流もされ、少しずつ認知症に対して理解もされてきている		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談員の受け入れがされている。現在回覧板は、回してもらっているが、過去において、回覧板の参加を拒絶されたいきさつがあり、市への相談により解決された。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員の手作りの「ホーム便り」が写真入で発行されている。年に4回の発行を計画している。	○	ホーム便りの発行が年4回発行できるようにしていただきたい。ホーム便りに職員の異動も乗せ家族へ報告をしていただきたい。職員の手で利用者の近況報告も同封できるように努力していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族よりの要望・苦情は聞かれないが、近隣の住宅との多少の行き違いがあった事がある。事実を受け止め、ホームとしての姿勢を住民に理解していただける様、努力した。現在は、近隣の住民との意思の疎通が出来るようになった。何かがあっても反省し、前向きに検討している姿勢が見られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年までは、ユニットごとに生活の取り決めをしていたが、建物構造上ユニットの行き来が簡単に出来るので利用者も、ユニットを行き来している。職員と利用者の馴染みの関係を考え、職員を2ユニットで流動的に動かしている。利用者にも家族にも、喜ばれている。職員も自分のユニットだけに縛られることがなくなったので、気持ちが、軽くなっている。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を多くの研修に参加させる方針でいるが、1年に一回位の研修参加をしている。研修参加者は、定例会で内容を発表し、他の職員にも伝えている。職員は、年齢に関係なく、学びたいという姿勢が伺える。管理者は、毎日の生活の中で、若い職員達に、人として・お年寄りに対してなど一般生活の事も話している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千曲市の同業者の委員会には加入している。三カ所あるグループホームの管理者で交流を図る計画がある。相談など現在は管理者同士の交流があり、ホームの生活に役立っている。	○	グループホームのネットワーク作りをしていただき、管理者のみならず現場職員の参加も期待したい。職員同士の話し合いの中で職員も勉強・悩みなど解決にもつながると思われる。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に来訪していただき、2時間くらいホームで過ごしていただいている。家族と一緒に泊まるケースもある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多く、料理も不慣れなため利用者に聞きながら作る事もある。「まずい」と利用者が言いながら全部食べてくれることに感謝している。利用者からの優しい一言に喜びを感じる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により「生活暦」が調査されている。家族の方の記入により詳しく書かれている。長野市よりの入居者5名坂城が1名須坂1名地元千曲市が11名が入居されているが、見慣れた風景を見ることで気持ちの落ち着きを取り戻す。地域に密着して生活していることが利用者の気持ちを落ち着かせていると思われる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定例会で、計画を立てている。前もって管理者より、声掛けがあるので職員は各々自分なりの意見を持ち寄り検討会を行う。それを、管理者がまとめている。定例会は、月1回全員参加で行われる。毎日の生活の中で「ヒヤリハット」の観察に心がけているので、観察力も養われてきている。生活に密着した内容で、わかりやすく介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、6ヶ月で見直しをしている。心身の急な変化があるときは、随時行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	原則として病院への付き添いは、家族の方をお願いしているが、利用者の現状をよく把握できているのでホームで付き添いが多く行われている。理美容院の利用は、近くの美容院をお願いしている。職員が付き添い連れて行き、帰りは、美容院の方が送ってくれる関係作りが出来ている。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長野市より5名・坂城1名・須坂1名・千曲市11名家族の依頼で近所の協力医に変更している。利用者の状況で往診もしていただける。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに、ホームで1名看取りが行われた。ホームとしては、利用者が居心地の良く感じられる場所を考えたい。家族・利用者・職員の三者で話し合いを行い決めたい。家族会でもホームの方針は、話している。転居する場合でも、行き先がないことのないように援助して行く。医師の往診もお願い出来る体制になっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定に「個人情報の保護」・契約書に「守秘義務等」が書かれており、契約時に説明している。毎日の生活の中で、トイレ誘導の時も「〇〇さん、私トイレに行くんですけど、行きませんか?」「・・・お願いできますか?」と丁寧に話しかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者は、利用者の事を第一に考え行動するように指導している。当日も、散歩の組・買い物へ行く方々・台所を手伝う方・リビングで昼寝をしている方などさまざまであった。昼ごはんも時間に制限されることなく、ゆっくりとした時間の中で食べていた。毎日の生活の中で、自分の役割があるような生活が送られている。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で利用者が、食事の支度にかかわりを持って作られている。対面式のキッチンで、匂いと、音で料理を感じながら手伝いをして居る。洗い物をして、ふきんで拭く人。お箸を配る人など力量に応じて参加できている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、希望すれば、毎日出来る体制になっている。平均は、1日置きに入浴している。車椅子の方も居るが浴室用の車椅子に乗り、移動用の板を利用して入浴介助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの畑仕事。玄関脇には、長靴が用意されていた。畑には、大根・長ネギなどが沢山出来ていた。毎日の食料になっている。洗濯物を置んだり、出来る範囲で掃除をしたり、お客さんにお茶を出したりしている。花見(桜・アジサイ・バラ・菊)に出かけている。近くの「あんずホール」のイベントに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩。食材の買い物参加。近所のレストランなどへ外出に出かける事もある。職員は、外出時には「ネームプレート」を付けるようにしている。そうすることにより「まゆ」の利用者への理解を持っていただけることを希望して。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない。管理者は、職員の都合で動かないように指示している。徘徊を繰り返す方には、職員が見守りながら、目的が叶うまで、歩いていただき、最後にホームに連絡して迎えに来てもらう。最近では、徘徊があまり見られないように改善されてきた。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防・災害の訓練が行われている。消防署・消防団・地元住民の参加をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の方が作成した、カロリー計算された原本があり、それに基づき、独自の献立を作成調理している。10時のお茶・3時のお茶を設けている。水分の摂取と共に排泄も重要視している。記録もされている。排泄の記録などから必要な方へは、管理者から夜間の指示を出す。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は季節の花が飾られておりごく当たり前の暖かい家庭的な雰囲気づくりがされている。又居間や台所などは職員と入居者が助け合いながら調理が行なわれている。居間にはコタツが作られており、入居者が現在までの生活ぶりを継続できるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとりなじみのある鏡台やたんす、人形など持ち込んであり、現在までの生活を断ち切ることなく過ごせるよう配慮されている。又ベッドの生活に慣れていない入居者にはマットレスに布団で寝ている利用者もあり、個人一人ひとりの気持ちを大切に尊重されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。